

II 結果の概要

結果の概要

1 まち全体の印象について

“東松山市に愛着を感じている”（「愛着がある」または「どちらかといえば愛着がある」）と回答した人は、全体では7割を超えています。「愛着がある」と回答した割合は、今回の市民意識調査から調査対象に加わった18歳・19歳が高く、20歳代で最も低くなっており、それ以降の年代では年齢が高くなるほど高くなっています。

“住みよいかと感じている”（「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」）と回答した人は、全体の約7割となっています。さらに、住みよさを愛着度別でみると、愛着度が高いほど「住みよい」と回答する割合が高く、反対に愛着度が低いほど「住みにくい」とする割合が高くなっています。

定住意向では「現在のところに住み続けたい」と回答した人は、全体では6割台半ばとなっています。また、定住意向を愛着度別でみると愛着度が上がるほど、住みよさ別でみると住みよさが上がるほど高くなっています。

東松山市の印象について“よい”（「よい」または「どちらかといえばよい」）と感じている割合が高い項目は〈自然環境〉〈人柄・土地柄〉〈買物などの日常生活の利便性〉〈歴史と伝統〉となっています。一方“わるい”（「わるい」または「どちらかといえばわるい」）が“よい”を上回っている項目は〈活気とにぎわい〉〈都市としての個性や魅力〉〈市の発展性〉〈交通の利便性〉などとなっています。

2 健康や医療・福祉について

最初にかかる医療機関を「決めている」と回答した人は、全体の約7割となっています。また、最初にかかる医療機関の種類は「近所の医院・診療所・クリニック」が8割近くと最も高くなっています。

健康づくりのために心がけていることは「食事に気をつける」と回答した人は、6割台後半と高くなっています。次いで「十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする」が5割台後半と続いています。

経年比較をみると、「たばこを吸わない」「年に1回は健康診断や人間ドックを受ける」が平成21年度調査以降で最も高くなっています。「年に1回は健康診断や人間ドックを受ける」は平成28年度と比べ7.8ポイント増で最も上昇しています。また、いずれの項目でも、平成28年度から健康づくりのために心がけていることが増加しています。

“子育て環境が整っている”（「整っている」または「どちらかといえば整っている」）と回答した人は、約3割となっています。また、就学前（子）と同居している回答者では、“子育て環境が整っていない”（「整っていない」または「どちらかといえば整っていない」）が“子育て環境が整っている”を上回っています。一方、小学生・中学生と同居している回答者では“子育て環境が整っている”は4割台半ばとなっており、“子育て環境が整っていない”を上回っています。子育て環境が整っていない理由としては「公園や児童館など子どもが安心して遊べる場が少ない」「待機児童をなくすための保育所などの整備が不十分」「延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」などが高くなっています。

3 環境について

“環境に配慮した生活を心がけている”（「心がけている」または「どちらかといえば心がけている」）と回答した人は、8割台後半と高くなっています。具体的に行っている環境活動は「ごみの分別を徹底している」が最も高く、男性・女性ともに9割を超えており、「部屋の電気等をこまめに消している」「マイバッグを利用している」「家の周りなどに植物を植えている」などが続いています。いずれの項目も女性が男性を上回っています。

環境問題について、『すでに深刻な問題である』については、「地球温暖化」が約6割と最も高く、「ごみの増加や不法投棄」「酸性雨や大気汚染」「身近な緑や農地の減少」などが続いています。経年比較では継続して最も高い「地球温暖化」は、平成21年度を頂点に減少傾向にありました。しかし、今回は調査期間中の「これまで経験したことがない、命に危険があるような暑さ」を反映してか過去最高の割合となっています。

『重点的に取り組んでいく必要がある』については「ごみの増加や不法投棄」が3割台半ばで高く、「地球温暖化」「省エネや新エネルギー」「生活排水等による河川の水質汚濁」「身近な緑や農地の減少」などと続いています。平成28年度調査と比較すると、「騒音・振動・悪臭」は5.8ポイント、「酸性雨や大気汚染」は5.2ポイント減少しています。

省エネ設備や太陽光などの創エネ設備の利用状況について「利用している」は「建物の断熱化」が最も高く、「利用していないが今後利用したい」は「電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池（水素）自動車」が最も高く、次いで「家庭用蓄電池」となっています。

4 防災・防犯・交通について

災害に備えて行っていることでは「保存飲料水・食料品を準備している」と回答した人は5割、「家族や親族との連絡方法を決めている」が3割台半ば、「消火器を準備している」が3割台前半となっています。

平成28年度調査と比較すると、平成30年6月に発生した大阪府北部を震源地とする地震や7月豪雨の影響もあってか、「家族や親族との連絡方法を決めている」「保存飲料水・食料品を準備している」「非常用持ち出し袋を用意している」「避難場所や経路を確認している」などが増加しています。

防犯のために必要なことでは「防犯灯や街灯の数を増やす」と回答した人は6割台半ばと最も高くなっており、男性よりも女性の方が9.4ポイント上回っています。また、平成28年度調査と比較すると、「商店街などに防犯カメラを取り付ける」は4.8ポイント増加しています。

主に利用している交通手段は「自家用車（自分で運転）」と回答した人は7割台半ばで最も高くなっており、男性が女性を15.5ポイント上回り、「自家用車（家族や知人が運転）」は女性が男性を16.4ポイント上回っています。

市内循環バスの利用状況は過去1年以内に「利用したことがある」と回答した人は1割台で、「利用したことがない」が8割台半ばを占めています。年代別にみると、18歳・19歳で「利用したことがある」が5割を超える高さとなっています。市内循環バスを利用した理由は「買物」が約3割で最も高くなっており、女性が男性を14.7ポイント上回っています。「通勤・通学」では男性が女性を13.6ポイント上回っています。市内循環バスを利用したことがない理由は「ほかの交通手段を利用しているから」が6割近くと最も高くなっています。

デマンドタクシーの利用状況は「利用したことがある」は約1割で、「利用したことがない」が8割台半ばを占めています。年代別では「利用したことがある」は70歳以上で2割台後半と高くなっています。デマンドタクシーを利用した理由は「通院」が約6割で最も高くなっています。デマンドタクシーを利用したことがない理由は「ほかの交通手段を利用しているから」が約5割と最も高くなっています。

5 市民生活について

インターネットの利用状況では“インターネットを利用している”(「パソコンだけ利用している」または「スマートフォン(携帯電話)だけ利用している」または「パソコンとスマートフォン(携帯電話)で利用している」と回答した人は、7割台半ばとなっています。年代別でみると、18歳・19歳、20歳代、30歳代、40歳代では“インターネットを利用している”はいずれも9割台半ばとなっています。

学習や趣味などの活動状況としては「スポーツや野外活動」が2割台後半、「知識・教養や仕事に必要な技能、資格取得など」が1割台半ば、「芸術的なもの」「健康・福祉に関すること」は約1割となっています。また「特に行っていない」は約4割となっています。

生涯学習等の活動を行っている目的では「健康・体力づくりをする」が3割台前半、「趣味を豊かにする」「生きがいを高める」が2割台後半となっています。平成21年度調査から比較すると「特に行っていない」が徐々に増加する傾向がみられます。

運動(スポーツなど)を行う頻度では、週1回以上行っている“習慣的に運動を行っている”と回答した人はおおむね5割台半ばとなっています。一方「行わなかった」と回答した人は2割近くとなっています。職業別でみると、学生で“習慣的に運動を行っている”は6割台半ば近くと高くなっていますが、有職者では“習慣的に運動を行っている”は男女とも4割台後半となっています。

日本スリーデーマーチの参加については約6割が1回以上の参加経験があり、18歳・19歳、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代では5割を超えています。居住年数でみると、居住期間が長くなるほど“参加したことがある”が増える傾向にあります。参加理由は、「学校行事だったから」と回答した人は4割近くと最も高く、「市の代表的なイベントだから」「家族や友人・知人と交流するため」と続きます。

地域活動への参加状況では“地域の活動に参加している”(「よく参加している」または「ときどき参加している」と回答した人は全体の約4割となっていますが、20歳代では1割と低くなっています。

ボランティア活動への参加について「現在活動している」と回答した人は、約1割となっています。活動している分野は「スポーツ」が約3割で最も高く、「保健・医療・福祉」が2割台半ば、「子どもの健全育成」が2割近くとなっています。

6 人権・男女平等について

人権の意識については「高齢者」と回答した人は4割台半ば、「障害者」が3割台半ば、「子ども」が3割台前半、「女性」「インターネットによる人権侵害」「拉致問題」が2割台半ばとなっています。「子ども」「女性」で、女性が男性を10ポイント以上も上回っています。

男女の地位の平等感については、〈学校教育の場〉では「平等である」と回答した人は4割台半ば、〈家庭生活〉では約4割となっています。一方、〈政治の場〉〈社会通念・慣習・しきたりなど〉〈社会全体〉では“男性優遇と感じている”(「男性が優遇されている」または「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人の割合が高くなっています。

『男は仕事、女は家庭』という考え方には“反対である”(「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した人は3割台半ばで、“賛成である”(「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した人を上回っていますが、年代別でみると70歳以上では“賛成である”と“反対である”が並んでいます。

7 購買行動について

各種商品の消費活動場所については「市内の大型店・チェーン店」と回答した人は最も高く、〈食料品〉では8割台後半、〈衣服・服飾品〉では6割台半ば、〈家具・家電〉では約7割となっています。「市外の大型店・チェーン店」と回答した人は〈衣服・服飾品〉が2割台前半で、18歳・19歳では約4割、それ以降は年齢が高くなるほどおおむね低くなっています。

日用品の買物での利便性について、約3割近くが「不便さを感じている」と回答していま

す。その理由で最も多いのが「近くにお店がない」で8割を超えています。次いで「家族等の協力がないと買物ができない」で、女性が男性を16.7ポイント上回っています。

8 市政情報について

知りたいと思う市政情報は「健康・医療」と回答した人は4割台半ば、「福祉・介護」と回答した人は約4割と高くなっており、女性が男性を6.3ポイント上回っています。また、「市政の運営（施策・計画・財政）」では男性が女性を16.3ポイント上回っています。

市政情報の入手方法は「広報ひがしまつやま」と回答した人が約8割、「市からのお知らせや回覧」は4割台半ばと高くなっています。平成21年度以降の調査結果と比較すると「東松山市のホームページ」「東松山市のモバイルサイト」などは増加傾向にありますが、「市からのお知らせや回覧」「市役所などの公共施設にあるポスター・チラシ」「新聞・テレビ」などは減少傾向にあります。

市政情報の取得状況では“市政情報を得られている”（「得られている」または「ある程度得られている」）と回答した人は4割台後半となっています。また“市政情報を得られている”は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向にあります。

9 市政について

市の職員については、〈礼儀正しい〉〈わかりやすく説明してくれる〉〈言葉づかいがよい〉〈話をきちんと聞いてくれる〉などで肯定的な評価が高くなっています。

東松山市の将来像では「快適に暮らせる安全のまち」「誰もが自分らしく輝ける健康長寿のまち」が4割台半ばで高く、次いで「子どもたちが健やかに成長する学びのまち」が3割台半ばと続いています。

よくなってきた事業では「市民病院の充実」と回答した人は1割台後半と最も高く、次いで「子育てしやすい環境づくり」「健康づくりの推進」「安全で快適な道路の整備と維持管理」が約1割と続いています。性・年代別で見ると、男性・女性ともに60歳以上の年代で「市民病院の充実」の割合が高くなっています。男性の18歳・19歳、40歳代、50歳代と女性の20歳代では「安全で快適な道路の整備と維持管理」が1位となっています。

重点的に取り組むべき事業は「子育てしやすい環境づくり」と回答した人が1割台後半と最も高く、次いで「商店街活性化の促進等の商業振興」「高齢者支援の充実」が1割台半ば、「保健・医療体制の充実」が1割台と続いています。性・年代別で見ると、「子育てしやすい環境づくり」が男性の18歳・19歳、30歳代、40歳代、50歳代、女性30歳代で1位となっています。

10 地域資源について

東松山市の地域資源については、回答した人の約6割にあたる462人が「やきとり（やきとん、かしら）」をあげています。そのほかにも「日本スリーデーマーチ」（313件）、「箭弓稲荷神社」（234件）、「ぼたん」（225件）などがあげられています。